県「行革」をハネ返し

私たちの賃金・労働条件は、県教委との交渉で決定されます。今年度の賃金確定交渉は、県の新「行革」３年目の見直しの中で行われます。大型開発中心の県政を変え、学校を、子ども達が元気で安全に育つことができる場、教職員が安心して働くことのできる場にするための交渉が一ヶ月つづきます。（２面に資料）

第1回賃金確定交渉（ 10/27 私学会館 ）

10確定闘争に勝利しよう

９大要求署名を全職場から県教委へ!!

９大要求署名　要求項目

1 県「行革」による基本給、諸手当のカットを中止すること。

2 一時金、月例給、住居手当（持家）の減額を止め、生活改善につながる賃金改善を行うこと。

3 「給与構造改革」に伴う「現給保障」を減額しないこと。

4 「年額調整」の名によって賃下げの4月遡及を行わないこと。

5 義務教育等教員特別手当・給料の調整額の引き下げは止め、元に戻すこと。

6 定数内臨時教職員の正規化を図るとともに、「空白の1日」撤廃など、全ての臨時教職員の賃金・待遇を改善し、正規教職員との均衡を期すこと。

7 超過勤務縮減とメンタルヘルスの増進を進めるために、実効ある措置をとること。

8 職場に分断を持ち込み、教職員の士気を低下させ、教育を破壊する「教職員人事評価育成システム」を廃止すること。

9 特別支援学校スクールバス添乗、給食調理、学校環境整備など教育に関わる学校業務を民間委託しないこと。

県「行革」の正体は 県民の暮らし切り捨ての大型開発路線

財政悪化の原因は震災「復興」ではない

「震災復興の過程で相当無理を重ねてきた」結果財政が悪化したことを第一回交渉で教育次長は説明しました。しかし実際には既存のハコモノ・大型開発計画を、震災に乗じて詰め込んだのです。総額16兆３千億円の震災復興事業には、神戸空港建設、関西空港２期工事なども入っています。総事業費76億円をかけた淡路の「交流の翼」港は、船の入港もなく釣り堀化しています。県民が復旧に立ち上がるための直接の支援はたった２％に過ぎませんでした。

まだ続く大型開発！

そして現在も、加古川～小野を結ぶ南北道路（６キロに６６０億円）、神戸～太子町を結ぶ播磨臨海地域道路（50キロに５５００億円）という、１ｍ一千万円以上もする「高規格道路」の建設等の大型開発が続きます。

本当に掘るのか？海底トンネル

井戸知事は以前から神戸空港―関空を結ぶ「海底トンネル」に言及しています。兵庫地域政策研究機構（理事長は貝原元知事）は今年４月、５２００億円の工費でトンネルを掘る提言を国交省等に送り、知事は歓迎したと伝えられました。

県民にはサービス低下、職員は士気低下

県民を切り捨てる「行革」

大型開発を続けるために、県民と私たち職員の暮らしはどんどん切り捨てられてきました。

「行革」で第一に切り捨てられてきたのは、高齢者・子ども・障害者でした。今年「消えた高齢者」として高齢者の所在不明が全国的に問題になりましたが、県では、「愛の一声運動」（乳酸菌飲料を配る、一人暮らし老人の安全安心確認事業）が「行革」により00年度で全廃されたのです。これでは、「新行革プラン」にうたう「元気で安全安心な兵庫」は実現できません。

県職員を見捨てる「行革」

昨年は、年額平均32万を削減し、さらに人事委員会の引き下げ勧告16万円をかぶせて、合計年額平均48万円も私たちの給料から取り上げました。士気は危機的状況です。

学校も教職員も限界だ！

私たち教職員も、職務が年々困難さを増し仕事の量も増えるのに、賃金が減り続けています。また、学校予算が削減され、廊下の電気も点けることができない状況です。さらに、職員の非正規化が進み、高校統廃合が画策されるなど、教育にお金をかけない県財政が学校を破壊していきます。

賃下げスパイラルを止め 賃上げで内需拡大を！

労働者に支払われる賃金は県内を巡り、県民の経済を豊かにします。私たちの賃金は、民間にも大きく影響します。今「閉塞状況」といわれる経済を立て直すためにやるべきことは、給与削減ではなく、賃上げで内需を拡大し、公務―民間の賃下げスパイラルを止めることです。

新・折々の自句自解

なびきつつ土をねぎらふ穡（ひつじ）かな

西宮香風高校　見目　誠

刈り取った直後、稲田からは新たな葉が伸びだす。これを俳句では「穡」、そうした田を「穡田」などと称する。かなりな程度伸びるのだが、実を収穫することはない。とはいえ、すでに寒さを帯びた風に吹かれている、一面の穡田は美しいことこの上ない。稲作をする方の労苦は申すまでもないことだが、そのことも含め、疲れ果てたであろう土に対していたわるかのように穡は風に靡いている。

展望

▲10年度は記録的な猛暑、松茸の豊作に季節外れの台風発生、まるで政治の混迷を象徴するかのような出来事の連続である▲あからさまにされた国家予算の実態。一般予算の倍以上の特別会計。そして、アバウトな使われ方などは国民を完全に欺いていると同時に妙に感心してしまう。一体誰がこんな仕組みを考え出したのだろうと思うのは無知な私だけ？▲完成までに200年を要するスーパー堤防の廃止など粋なことをやってくれる政権だが、許せないのが人事院勧告より多く削減する目的で、労働基本権の付与に先行して労使交渉を可能とする特別立法の検討である▲人件費が予算の大半を占めるのは知っているが、国が最も守るべき国民をないがしろにして、特別会計の温存は絶対に許せない。国家予算の倍ほどもある特別会計からほんの僅か使うだけで我々の暮らしも十分に潤うはずだし、悪化している景気の回復も十分に効果があるはず▲そう考えると賃金を凍結されたような状態のこの10年間の組織の頑張りが、官僚たちにあざ笑われているように感じてしまう。しかし、多くの国民も同じような意見を持っているはず、捲土重来を期するのみである。

兵庫高教組新聞

発行所
神戸市中央区北長狭通5-2-10
兵庫県高等学校教職員組合
TEL 神戸(341)6745～6747
E-mail
honbu@hyogo-kokyoso.com
http://www.hyogo-kokyoso.com
発行人　津川　知久
編集人　松岡　敦之

定価　1部　20円
半年分　120円

組合員の購読料は組合費含め徴収

１１月　日程

1日～　（～12/24）
・第三次加入推進期間
3日(水)
・憲法集会（各地）
4日（木）
・第2回拡大闘争委員会
(16：30～本部)
13日(土)
・学区拡大反対交流集会（10:30～学校厚生会館）
・教育フォーラム(13:30～学校厚生会館)
27日（土）
・神戸市教研（10：00～神戸市勤労会館）

学習の秋　各地で支部教研開催

琉球大学山口剛史さん講演“沖縄の米軍基地の現状”
沖縄の子どもも沖縄戦の知識が不足。そこで「米軍基地クイズ」で特別授業に取り組んでいるとのこと。

全体会“学区拡大問題”－都市部と地方では温度差が。小野・加東・西脇・多可での請願採択に向けて各分会が協力してとりくむことを確認。

二宮厚美さん講演“つくられた子どもの貧困”
「『もの』の貧しさと、『ケア』の貧しさが皮膚を突き破って子どもの体内に入り込んでいる」

学区問題分科会－滋賀県では、学区統合後2年で統廃合検討会を設置。学区拡大の狙いは明らか。

乾杯の前に、学区拡大問題への但馬支部のとりくみと成果の報告。参加者傾聴－そして120人の大焼き肉パーティー。さすが但馬。

丹有　10/16

特別報告“小規模校存続に向けての自治体要請について”－氷上西高存続の活動が報告されました

西村滋賀高教組副委員長講演“全県一学区で滋賀はどうなったか、どうなるか”
導入の理由に「学校選択の自由」。導入後、学力もお金もない人は不自由に。高校統廃合計画に対し各地で反対運動、「再編計画案」は延期！

テーマ：「ともにかんがえよう 子どもの未来」
生田武志さん講演「貧困を考えよう 子どもと野宿者の視点から」

秋葉英則さん講演“ふつうの子どもにこだわる”
学区拡大問題分科会も開催。教育を語る有意義な会になりました。

分会キャラバン

本部・支部役員がおじゃましました

県尼工分会
定期考査期間恒例の昼食分会会議。お寿司を食べながら、人勧、免許更新、定年延長などの問題を議論しました。

上野ヶ原特支・高等特支分会
上野ヶ原特支と高等特支の併設のため、問題が山積みです。学校の未来を見据えて、両分会は精力的に活動されています。

全国女性教職員学習交流集会

10月9・10日、第20回全国女性教職員学習交流集会が大阪市内で開催されました。全国から835人、兵庫高教組からも11名が参加しました。

集会に参加して
姫商分会　松本実可

暴力的とも言える橋下府政と闘う大阪のがんばりが伝わってくる集会でした。

〈その一〉
安斎先生の講演。いつもながら正確で厳しく面白く。

〈その二〉
小中の方のパワー。構成劇、合唱はもちろん、夜の交流会ともなればステージに合わせてあちこちで踊り出す人あり。高校の教員て口だけやもんな（異論ある方もおられましょうが）と私たち高校組はお尻もぞもぞ。

〈その三〉
分科会。採用2年目の人。組合が何かはわからなかったけど、信頼している方がみんな組合員だったので入りました、と。会場は我が子を見守るような温かな雰囲気になりました。彼女の思いを受け止め拡げられる職場でありたいです。来年は香川、是非ご一緒に。

県「行革」による賃金抑制（1面の資料）

①　月例給のカットは？

該当職等 (　)は役職加算率	給与月額の減額率	地域手当一律△2%を合わせた減額率
校長(20%)	△７％	**△９％**
校長(15%)、8級事務長	△６％	**△８％**
教頭、7級事務長	△４％	**△６％**
主幹、教諭等(10%)、6級事務長	△３％	**△５％**
役職加算５%の職員	△2.8%	**△4.8%**
役職加算なし	△2.5%	**△4.5%**

②　一時金(役職加算)のカットは？

本来の役職加算率	減額率　（減額後の加算率）
２０%	**△１０%**　（１０%）
１５%	**△７.５%**　（７.５%）
１０%	**△４%**　（６%）
５%	**△１%**　（４%）

役職加算とは給与表の級・号給によって期末勤勉手当に差を付ける支給で、だいたいその%分加算されます。
10％… 教頭、主幹教諭、教育職2級129号以上、行政職7級
5％… 教育職2級55号以上、同1級63号以上、行政職5・6級、同4級5号以上、技能労務職73号以上と別表

③　年間のカット額は？

昨年度は次のような減額の状況でした。

教諭（50歳・2級137号現給保障中）　△約40万円
教諭（45歳・2級117号現給保障中）　△約30万円
教諭（27歳・2級37号）　△約15.5万円
実習教員（45歳・1級126号）△約24万円
校務員（51歳・246号）　△約26.5万円